

別記様式（第5条関係）

会議録

会議の名称	第9回福津市共働推進会議
開催日時	令和5年7月14日（金）午後5時45分から午後6時45分まで
開催場所	宮司コミュニティセンター 研修室
委員名	（1）出席委員 嶋田 暁文、奥 弘子、小林 真理、富松 享一、三ッ橋 美津子、山口 覚、山田 雄三 （2）欠席委員 依田 浩敏、中川 孝晃
所管課職員職氏名	市民共働部長 香田 知樹 市民共働部地域コミュニティ課長 石井 啓雅 地域コミュニティ課市民共働推進係長 井上 真智子 地域コミュニティ課郷づくり支援係長 向井 恭子 地域コミュニティ課郷づくり支援係 折居 鈴香
議 題 (内 容)	・ワークショップの振り返り
	公開・非公開の別 <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由
	傍聴者の数
	資料の名称
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	記録内容の確認方法 委員による確認
その他の必要事項	その他参加者 1名 ※会長及び各委員の了承済み

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. ワークショップの振り返り

委員

4つのテーマで話したが、テーマ間でもつながりがあると感じた。今まで郷づくりにあまり興味がなかった方からも、自主財源などを持つことができれば若い方も興味を持ってもらえるのではないかという意見が出たのが印象的だった。色々な世代の方と話せて良かった。

委員

キッカケラボの方に入ってもらえたのは良かった。自治会長は超人的な労力と責任や熱意が期待されていると感じ、どうにか自治会長を支援する仕組みはないのだろうかと思った。何か相談を受けた時に、フローチャートのようなもので、市はどんな対応ができるのか、こういう仕組みで動いているのを見える化しておくだけでも違う。市がサービスの提供者であった時代から、伴走者の時代に変化した、その伴走とは、こういったことができるというのははっきりしたほうが良い。

また、年に1回、全職員と郷づくりの全役員が集まって意見交換をするのは大変だというイメージがあるが、年1回そういった場を作るだけでも、積み重なった小さな労力に対する負担感を軽減することはできるのではないかと感じた。

参加者

自分の班の市の関わりというテーマは、他3つのテーマをまとめたようなテーマだったため、かなり幅が広く難しかった。最終のゴールは、何かあった時に自助で何とかできるということではないかという話があり、そこで市ができることは、コミュニケーション能力や金銭面のサポートではないかという話が印象に残っている。郷づくりには、見えない仕事があり、その見えない仕事には、どのくらい作業量があるのか、どのくらい負荷がかかっているのかを想像したら、分担や作業の効率化は必要ではないかと感じた。

委員

キッカケラボの方の協力を得られたことで、上手く進んだと感じた。今日のように若い方と話すことは良い刺激になる。今後もキッカケラボと郷づくりのつながりは、大事な要素だと感じた。また、改めて郷づくりとは何かを考えていく必要があるのではないかと感じた。

委員

他の郷づくりと意見交換をして色々な話ができ、普段聞くことがない若い方の意見も聞けて勉強になった。今回の場をきっかけに、郷づくりとしても、キッカケラボなどと歩み寄っていかなければいけない、今のままではいけないと思った。また、自治会長も大変だが、郷づくりの会長も本当に大変だと今回改めて感じた。自分たち役員も、会長を助けていかなければ成り立

たないと感じた。

委員

昨年、8つの郷づくりに地域視察に伺った時のイメージとは違う印象を受けた。キッカケラボの方が参加されたこともあり、今回はさらに素を出されていると感じた。色々な不満が出てきたが、こういった場もとても大切だと思った。今日話している中で、キッカケラボは楽しいから会話も弾むのではないかと感じ、郷づくりも楽しく参加できるような拠点になれば、若い方も参加してみようというイメージが湧くのではないかと感じた。

事務局

キッカケラボの方も、委員の方も、グループの長を取り持っていたことで、有意義な話合いができたと思う。休憩時間にも、隣の方と話している方が多く見受けられ、こういう場を持てて良かったと思った。これまで話合いは何度もしてきたという話もあったが、今後もこういう場は少しずつ続けていければと感じた。

事務局

8つの郷づくりからこれだけの人数が集まりワークショップをしたのは、恐らく平成26年以来である。職員の一部には、郷づくりの位置付けや関わり方のスタンスがよく分かっていない者もあり、職員の中でも考え方が異なっている。合併直後は、市職員全員に郷づくりについての研修を行っていたが、市長も変わり、郷づくりを始めたばかりの頃とは市の状況も変わってきた。今は、全職員を対象とした郷づくりの研修の開催からは遠ざかってしまっている。郷づくりがどれだけの役割を持って、市政の一端を担ってくれているかということも含め、市と職員側の認識を変えていけるように、職員研修の中に入れていかなければいけないと思った。また、会長と市三役との交流も、コロナ禍もあって行っていないため、そういった交流の機会も復活させていく方向で考えなければいけない。改めて、市側と地域側がお互い分かり合えるように、我々が後押ししなければいけないと感じた。このような場で顔見知りになることによって、近い関係になれるようにしていかなければいけない。

事務局

今日がどんな場になるのかとても緊張していたが、横のつながりもできたと言っただけで安心した。聞こえてくる声や発表の話を聞いていると、自分では想像つかないようなアイデアが出ていたため、色々な方から話を聞くことは大事だと感じた。自分の視点のずれがあるということも分かった。また、市の職員と地域の方との認識のずれは、とてももったいないと感じる。そのずれを共有することで、早い段階である程度解決できることもあるのではないかと感じた。新しいことをするというのも大事だが、今あることを再認識することも考えていければと思った。

委員

長いという意見もあったが、切り上げてしまおうと言いたいことが言えずに

終わってしまうため、やって良かったと思う。キッカケラボの方に入っただけなのは本当に良かった。今回、席替えをするときに誰が残るか指示はしないと決めていた。結果、キッカケラボの方が多く残られたが、郷づくりの方にキッカケラボの存在を強く認識してもらうことができたと思う。今まではそういう場所が新しくできても、誰が何をやっているのか分からなかったが、今回、固有名詞が知れたという状況を作れたことで、ちょっと遊びに来たということが起こり得るのではないかな。

また、我々が色々な場所でヒアリングを行い、問題認識を理解した上で、具体策を出してほしいということを、繰り返し言ったが、まだ問題意識が滔々（とうとう）と出続けていた。掘っても言い足りないという感覚があるのだと感じた。

会長が最後に、方向性をしっかり決めてくれないと動かないというのは、自分たちの首を絞めることにもなり、決まっていないうことは裁量を与えられていると言われていた。同じことでもプラスの解釈とマイナスの解釈があるが、行政側も郷づくり側もプラスに解釈し、自由度を持ってやっていくという意識付けをしていくということはとても大事だと思った。これは行政側にも言えることで、会長が、例として別会計を持つならば別法人を立てるという方法があるといった提案をされていたが、それは他の自治体では既に行っているところもあるため、できない理由はない。そういった話を、今回の答申だけではなく、他の自治体がやっているのであればやろうというような、行政側の思いも返してあげると、あの場で話した甲斐があったとなる。これだけ言ったのに採用されないとなると、落胆してしまう可能性もあるため、行政には答申の内容を真剣に受け止めてもらいたい。

今日の話合いで、審議会は、郷づくりに寄り添い、郷づくりの思いをくみ上げて答申してくれようとしているという空気を感じてもらえたのではないかな。さらに、会長が毎年何かの形で関わっていきたいとおっしゃっていただいたことも、すごく勇気を与えてもらえたのではないかな。

また、始まってすぐ、どこかの郷づくりの会長が、自分のところに来て、そもそもこういった話し合いをする前に、各郷づくりでどういう問題意識を持っているか情報共有したほうが良いのではないかなと言われていた。この場合は、地域視察の問題意識を基に、解決策を考える場であると伝えたところ、4月に会長になったばかりで、そういった経緯を知らなかったと言われていた。長く郷づくりに関わっている方は、またするのかという感覚かもしれないが、初めて会長になられた方は分からないことがたくさんある。担い手を育てると同時に、知識をしっかりとつないでいくことは非常に重要であると思った。ヒアリングの結果は郷づくりに渡してあると思うが、会長まで情報が渡っているか、目を通しては別の話である。情報を共有していくことはとても大事だと思った。

事務局

今日のようなワークショップの場は初めて参加した。今日に向けて準備している段階では、批判的な意見やマイナスの意見が飛び交うのではないかなという不安があった。実際始まってみると、改善策もたくさん出てきて、郷づくりを良くしていきたいという意識を持って、日頃活動していただいている

というのを改めて感じた。郷づくりやキッカケラボ関係なく、話されているのを見て、このような場は大事なのだと改めて感じた。審議会以外でも、このような機会が設けられたら良いのではないかと思った。

事務局

ワークショップを外から見させてもらうという機会は滅多になく、空気が変わっていくのが見て取れた。初めは張り詰めていた空気感が、回数を重ねる度に暖かい空気になり、表情も和やかな方が増えていく様子が伝わった。この空気の変化が、この場で考えてもらったものが答申として出た後、郷づくりが変わっていく可能性を見て取れたため、これから楽しみである。

キッカケラボのスタッフは、郷づくりや市がやっていることを詳しく知らないからこそ、素直に受け止めてくれたところも、良かったのではないかと思う。最後に会長が言われた、市民と市民がテーマを基に雑談や対話をするという場づくりを、キッカケラボのスタッフと共に広げていきたいという思いがある。主体的にまちに関わる方や、自分事にしていく方が増えることで、郷づくりの活動も豊かになるのではないかと感じたため、キッカケラボも頑張っていかなければいけないと思った。

会長

自主財源を確保したいという方が多かったことが印象的だった。自主財源を稼いでもと言われても困るという方が多いと思っていたが、全くそんなことはなかった。

キッカケラボの方に入っていたことは、地域の方にとっても良かったが、キッカケラボの方にとっても良かったのではないかと思う。地域がどんな感じか分かったと思うし、こういう方だと分かって安心感も出てきたのではないか。

また、審議会にとっても意味があった。行政側がワークショップのような場を設けようとする抵抗感がある。この場に來られた方は、今まで何度も言ってきたのに実現されなかったことが、この場で言えば変わるのではないかという期待感を持ってこられた方が多かったと思う。何か変わっていくのではないかという契機として今回の場があり、郷づくりと審議会の信頼感のようなものが、今回の場を作っていくうえで重要だったと思う。答申後もこの審議会が続いていくのであれば、今回のような場を年に1回ほど定期的に行うことが重要である。

よく学生には、怖いときは近くに行けと言う。怖いから遠くに座ると、ますます怖くなるが、懐に入ってしまうと逆に怖くない。行政職員も地域との距離感を詰めていくことがとても大事である。

また、市は伴走者であるという位置付けを、もっと強く答申で言った方が良いと思った。これまでとの違いを、言葉やキーワードで見せていかなければいけない。

研修という話が出たが、ぜひ郷づくりの会長に研修の講師をしてもらいたい。地域の人たちが自治体に相談するという構造の下では、市への要望ばかりとなる。逆に、自治体職員がどうしたら良いかを地域の人に相談すると、話すきっかけにもなる。そういう意味で、現場の方に講師になってもらうよ

うなことも答申に入れられればと思う。

以前から申している通り、自治会長や郷づくりの会長は、色々なことを抱え込みすぎてしまう部分がある。今どういった業務をしているのかを棚卸し、整理した上で、やめたり、重ねたり、分担をし直したりといった整理をする仕掛けを作れたらいいと思う。

また、別会計のガイドラインも大事である。例えば、スイカの苗を交付金で買った。完成したスイカが1個2,000円で売ると、10個で20,000円になった。これをどちらの会計に入れるのかという話になるが、この場合、育てたのは郷づくりの努力であるため、別会計で良いというようなことはガイドラインで示してあげなければいけない。個別にこういったことを事務局が聞かれると、より慎重に考えることになり、簡単に進まなくなる。そこで審議会が意味を成し、こういう場を通じてガイドラインを作っていけば、事務局の負担も減る。進行チェックという意味もそうだが、具体的に動かしていく段階でも、一緒に動いていく必要があるのではないかと思った。事務局の負担にもなるかもしれないが、審議会は答申を出して進行をチェックして終わりではなく、具体的な実行に対しての役割も意識していければと思う。

2. 今後の進め方について

会長

次回9月22日の審議会に向けて、中間報告案を作成していくことになる。8月前半に内容を固め、委員の皆さんと郷づくりに内容を確認していただき、9月22日に正式な了承をいただくという流れになる。原案の作成は、事務局と正副会長を中心に考える。

事務局

郷づくり基本構想の中に、地域の支援策と地域に期待する取組み状況が載っており、これが今どのくらい進んでいるかというアンケート調査を、郷づくりと市の職員に行っている。審議委員の手持ち資料として、「郷づくり基本構想」の見直しについてという資料を渡していたが、事務局で入れていた具体例の素案に対し、今日のワークショップで出た話と、郷づくり基本構想の進捗状況の回答を合わせて、中間報告の案を固めていくというイメージで良いか。

会長

進捗状況は、報告の前段の入りの部分で少し出て、参考資料が付くイメージである。あくまで、問題点をどう変えていくのかというところを中心に、具体策を入れられるものは入れていきたい。今回は郷づくりの皆さんにお返しするというイメージであり、現状をどう伝えるかよりも、問題点に対して我々がどう答えるかということが問われている気がする。

事務局

9月22日に審議委員の皆さんから意見をもらうのではなく、中間報告案を完成させた状態で、改めてこの場で確認するということが良いか。

会長

良い。

委員

人財育成・確保の部分で、どうしても人財育成・確保と言うと、独自に人財育成・確保するためのプログラムを作ろうといった発想になりがちであるが、キッカケラボのような場で、現在取り組んでいる地域活動を、地域デビューのようなプログラムに変えることもできるのではないかと思った。色々な地域から参加してもらうことで、交流も生まれる。少しやり方を変えるだけで、プログラム化できたり、人財育成・確保につながったりするのではないかという気づきがあった。

会長

それでは、以上で本日の会議は終了とする。